

～製作活動 節分 鬼の顔作りの報告～

新年の挨拶をさせて頂いたのも、つい先日の事かと思いましたが、気付けば立春を迎え、道の木々もつぼみが段々と大きくなり、春の気配がしてまいりました。

さて、ほのぼの堀之内では季節の行事として鬼の顔作りを行いました。既製品では、面白みに欠ける為、のっぺらぼうの鬼の輪郭や目や鼻、口は色々なデザインの物を用意して、手指の運動を兼ねてご利用者の皆様にハサミで切り取って頂き、皆様のセンスで糊付けして頂きました。「怖い鬼を作ろうかしら?」「こうすると可愛らしい感じになるわね」「その鬼も素敵ね」と周りのご利用者や職員と会話をしながら、楽しそうな様子で取り組まれていました。鬼の顔が出来た後は、それぞれの作品を手を持って頂き、記念撮影を行いました。



～節分ダーツの報告～

1月末から節分の期間に午後のレク活動として豆まきをモチーフにした節分ダーツを行っています。ダーツの先には磁石が付いており、上手く命中すると鬼の顔をデザインした的に貼り付いて点数を競います。「鬼は外～!」「福は内～!」と事業所内に威勢の良い掛け声が響いていました。最後に投げて頂く時には、ほのぼの堀之内恒例の「堀之～内～!」という大きな声も言って頂き「何その掛け声～!?!」「ほらちゃんと

当たっているわよ」
「凄い全部当たった」と
楽しそうな声と歓声が上がっていました。



～節分 回想法の報告～



節分の期間中、節分を題材に回想法(※)を実施しています。

鬼のお面や、ひいらぎの葉っぱにイワシの頭を付けた物、豆を入れる升 また昭和中期に当時の横綱大鵬が豆まきを行っている写真等を用意して、ご利用者の皆様に見て頂きながら、お話しを伺っていきました。

「豆をまく時は前日から神棚に升に入れた豆をお供えてね。それから蒔いたのよ」「節分の時に成田山に行った事がある。凄い人でねえ～」
「我が家ではお父さんが鬼をやってね～」と当時を懐かしんで、皆様の思い出話を聞く事が出来ました。こういったお話しを聞いていると、伝統のちょっとした作法等を聞く事が出来て、私たち職員にとっても文化を学ぶ良い機会になります。

次回も為になるお話しを聞かせて下さいね。ひと昔前は節分を迎えると、外から各ご家庭で「鬼は外！」「福は内！」と言った声が聞こえてきたものですが、そういえば最近では聞く事がなくなりましたね。皆様はどんな節分の思い出がありますか？



※回想法はアメリカで生まれた心理療法のひとつです。自分の過去や昔の事を話す事で、精神の安定や認知機能に効果があると言われてています。

インフルエンザの流行について

ここ3年程、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う行動制限等の感染対策で、インフルエンザの流行は無かったのですが、今年は行動制限の緩和に伴い、以前と同様に猛威を振るい始めています。2月3日に厚労省から発表された数字によりますと感染者数は全国的に増加傾向で、統計上は昨シーズンの同時期に比べ900倍以上となっています。

例年では感染のピークは1月から2月上旬に掛けてですが、引き続き手洗い、うがい等の基本的な感染対策をし、体調の管理に充分にお気をつけください。またインフルエンザの場合は室内で加湿器を使って適切な湿度(50～60%)に保つ事も感染対策には有効です。暖房を使用すると空気が乾燥してきます。室温だけではなく、湿度にも注意してお過ごしください。